

智頭の山と暮らしの未来ビジョン (概要版)

智頭での暮らしを創造し、自然環境と経済活動の調和のとれた、誇りと責任ある智頭林業の実践へ向けて

智頭の山と暮らしの未来ビジョン "4つの柱"

智頭町の現状

森林は成長

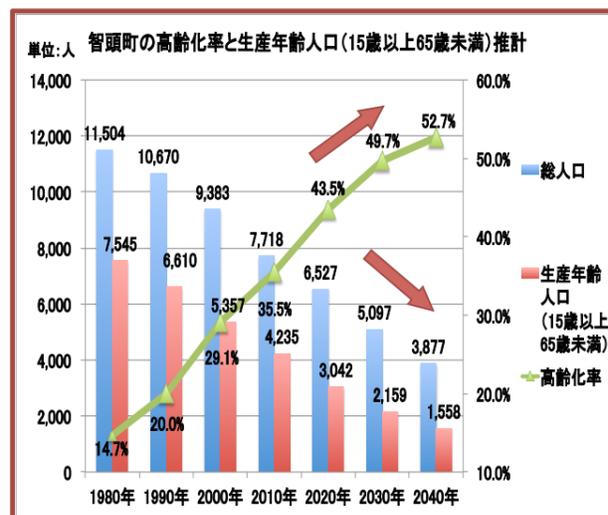
山はどうすればいい？



出典:鳥取県林業統計

少子高齢化

この地域で暮らしていける？



出典:出典:国立社会保障・人口問題研究所(2018年3月推計)

担い手の減少

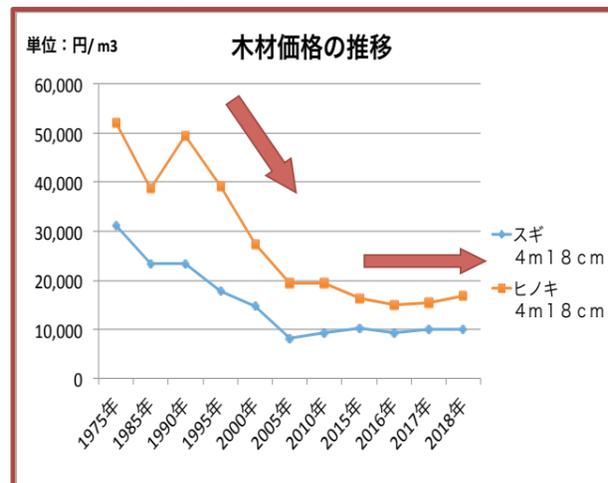
担い手の確保は？

	1950年	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年	2015年
人口	14,472	14,390	12,392	11,504	10,670	9,383	7,718	7,154
就業者数	6,802	6,834	6,797	6,138	5,488	4,614	3,472	3,383
農業	3,519	2,872	1,923	798	544	392	193	303
林業	688	605	411	466	234	153	105	92
漁業、水産養殖業	1	0	0	2	2	1	2	0
鉱業	12	37	13	12	19	34	0	0
建設業	336	392	642	839	642	679	398	331
製造業	724	977	1,864	1,848	2,091	1,448	860	787
電気、ガス、熱供給、水道業	304	43	39	32	16	16	9	7
運輸、通信業		233	256	215	179	159	133	138
卸売、小売業、飲食店	656	761	712	794	665	629	462	404
金融、保険、不動産業	29	49	68	84	83	82	64	61
サービス業	393	732	734	868	842	846	1,036	1,111
公務	129	132	126	173	171	174	157	142
分類不能の産業、不詳	11	1	9	7	0	1	53	7

出典:国勢調査(各年版)

木材価格は低迷

林業で食べていけるの？



出典:鳥取県林業統計

1 山村の暮らし「生活」と「生き方」

私たち一人ひとりの暮らしがこの町を支えています。私たちが自らの生きる選択肢として、智頭という山村を選択し、暮らしに生きがいを感じ、誇りと責任を持てる地域を創造していく必要があります。

2 自然環境「ヒト」と「ヤマ」

様々な関係者で智頭の山について話し合うことが重要です。山は私たちの生活基盤であり、私たちは智頭という山村での暮らしから様々な自然の恵みを楽しんでいます。また一方では、今後起こりうる自然災害等のリスクを認識し、それに備えて暮らしていく必要があります。私たちは他の動植物を含めた大きな山林生態系の一部です。智頭という山村で長く暮らし続けるために、自然環境への理解と配慮に努めることは、私たちの責任です。

3 山林の管理・マネジメント「所有」と「利用」

智頭の自然環境、経済活動、そして暮らしの調和を目指す、適切なルールを定めた上での、山林の所有と管理・利用が求められます。そうすることによって、私たちは山林から持続的に多くの機能と価値を引き出し、より災害に強く、資産価値が高く、美しい山林の実現が可能になります。

4 林業経営「木材」と「人材」

先人が大切に守り育ててくれた智頭杉は、このまちの誇りです。私たちも智頭の山林と人材を育み、地域に雇用を創出し、誇りと責任ある智頭林業を実践していきます。

町の現状を振り返り、次の時代に求められる森林のビジョンとは？

詳しくは裏面をご覧ください →→→

智頭の山と暮らしの未来ビジョン 基本方針

〈お問い合わせ〉
智頭町役場山村再生課 0858-75-3117

1 山村の暮らし「生活」と「生き方」

(1) 山に寄り添う暮らしの創出

- 薪利用、狩猟、山菜採り、民泊、教育、健康づくり等、智頭の豊かな山林資源を活かした暮らしを創出します。

(2) 町民の木づかいの促進

- 智頭の木が住民の暮らしにより身近なものとして浸透するように努めていきます。

(3) 地域の担い手創出

- 世代や産業・教育・福祉等の枠を超え、地縁を支え、地域を支える担い手の育成に取り組みます。

(4) 再生可能なエネルギー及び資源の自給

- 持続可能な暮らしの実現に向けて、エネルギー及び資源の自給により、地域の安定性を高め、農山村での産業振興に寄与します。

2 自然環境「ヒト」と「ヤマ」

(1) 生物多様性の保全

- 生物多様性の重要性を認識し、その保全に努めます。

(2) 自然災害に対するリスクマネジメント

- 山林の適切な管理と整備により、災害に強い山林を育てていきます。

(3) 生物リスクに対するリスクマネジメント

- 病虫害、シカ害等の被害が拡大しないよう、対策を講じていきます。

(4) 美しい景観の保持

- 美しい山林の景観を保持することにより、様々な山林の機能(文化、レクリエーション、防災、生物多様性保全等)を同時に発揮していきます。

(5) 流域への配慮

- 山から里、川、平野部、そして海までの様々な受益者と協力し、持続可能な山林資源の利用を模索していきます。

3 山林の管理・マネジメント「所有」と「利用」

(1) ソフトインフラ(山林情報)の整備

- 境界情報や森林蓄積・施業履歴等をはじめとして、山林情報を整理し、見える化していきます。

(2) ハードインフラ(林道・森林作業道等)の整備

- 山林の管理が適切にできるよう、林道・森林作業道等のインフラ整備を進めていきます。

(3) 所有者の責任

- 山林の所有者が自分の山の情報を把握し、地域の社会資源の所有者として、地域と山林の持続性を保つために、どのような管理が適切か考えていきます。

(4) 利用者の責任

- 地域の社会資源の利用者として、地域と山林の持続可能性を保つために、どのような利用及び管理が適切か考えていきます。

(5) 適地適木

- 持続可能な森林管理に向けて、針葉樹等の一部広葉樹林化等を含め、環境条件に即した適地適木に取り組んでいきます。

4 林業経営「木材」と「人材」

(1) 人材育成

- 智頭林業の伝統である長伐期多間伐施業を受け継ぎつつ、山林から持続的に価値を創出し、地域を支えていく担い手を育成していきます。

(2) 低コストかつ持続可能な林業経営の推進

- 持続可能な林業経営のため、造林、木材伐出等のコスト削減に取り組み、山側(山林所有者や素材生産者等)への還元を努めます。

(3) 智頭林業のブランド力向上

- 川上(森林の担い手)から川下(木材の利用者)までが連携し、地域の特色を活かした智頭材の生産、及び地域の暮らし・産業の実現に努めます。

(4) 地産他消の推進

- 智頭林業や智頭材の魅力を都市部をはじめとする県内外に発信し、またその価値を理解してくれる応援者の育成に努めます。地産他消の推進は地域の魅力の再認識や、需要の拡大及び経済基盤の安定に繋がります。